

2015年度 木質物性研究会討論会
「私にはわからない～木材物性の無知の知」

木質物性研究会では、平成 27 年 9 月 17 日（木）～18 日（金）に京都府立大学の野演習林にて毎年恒例の討論会を開催しました。今回の主題は「木質物性の分からないことについて語ろう」でした。木材物性に限らず、樹木・木材にはまだまだ分からないことがたくさんあります。でも、一体何が分かっていないのでしょうか。通常、学会大会や論文では既知のことについて語ります。だけど、分からないことを個人の胸にしまっておくのは惜しい気がします。そこで今回の討論会では、木材物性研究者である諸先輩方に今こそ胸襟を開いていただき、「私は...木材物性のここが分からない...」と真摯に語っていただこう、という思いで企画いたしました。

今回の討論会では、本当に様々な研究者の方々に語っていただきました。発表順に挙げますと（敬称略）、阿部賢太郎（京都大学）、矢野浩之（京都大学）、杉元宏行（愛媛大学）、金山公三+田中聡一（京都大学）、安藤幸世（名古屋大学）、古田裕三+桐生智明（京都府立大学）、山本浩之（名古屋大学）、三木恒久（産業技術総合研究所）、杉山真樹（森林総合研究所）、中井毅尚（島根大学）、松尾美幸（名古屋大学）、安藤大将（京都大学）と、計 14 名の方々に話題を提供していただきました。この場をお借りして、改めてお礼を申し上げます。話題の内容も、木化の意義、木材物性・構造を活かした高機能材料開発、構造と物性に関係性、成長途中の材質改変、引張あて材に発現する成長応力、各植物中のセルロースの結晶弾性率、木材の湿熱回復、リグニン-糖複合体（LCC）等々と非常に豊富でした。全く異なるテーマのようで実は根っこでつながっていたり、もうそれってとっくに明らかになっていたのではと思っても実は全然誰も分かってないことであつたりと、非常に新鮮な内容ばかりでした。分からないことは恥ずかしいことではありません。分からないことを認識することが研究の第一歩です。日頃聞くことのない先達の無知を共有することで、何か新しい発見につながり、また若い研究者の研究意欲を高める一助になれば幸いです。